

佐賀県研究成果情報

施設栽培ブドウ白色系品種「ロザリオピアンコ」の環状はく皮による熟期促進					
[要約]「ロザリオピアンコ」は、開花35日後頃に主幹部に幅2～3cmの環状はく皮処理を行うと糖度の上昇と減酸が早くなり、果皮の黄緑化がすすみ、7～10日程度熟期が促進され早期収穫が可能となる。					
果樹試験場・落葉果樹研究担当			連絡先	0952-73-2275 kajushiken@pref.saga.lg.jp	
部会名	果	樹	専	門	裁
					培
				対	象
					ブドウ

[背景・ねらい]

佐賀県は「巨峰」中心の産地であるが、花振るいや着色不良などにより生産が不安定である。このため新品種の導入による産地振興がすすめられ、黒色系、赤色系、白色系品種を組み合わせた新たな販売方法が検討されている。白色系ブドウ「ロザリオピアンコ」は実止まり良好で食味が優れた有望品種であり、県内でも施設栽培で一部導入されているが、熟期が遅いため「巨峰」、「ピオーネ」や「安芸クイーン」などとのセット販売を行うには熟期促進が課題である。そこで、環状はく皮処理による早熟化技術を確立することで新規導入を促進し、新たな販売方法の確立とブドウ産地の活性化を図る。

[成果の内容・特徴]

1. 開花 35 日後頃に主幹部に幅 2 ～ 3 cm の環状はく皮処理（図 1、図 2）をすると、糖度は処理後急激に高くなり、収穫期まで高く推移する。酸度は、処理後減少し、収穫期まで低い（図 3）。
2. 環状はく皮処理をすると収穫時の糖度が高く、酸度が低くなり、食味が良好となる。果皮色は緑色が薄くなり黄緑色となる。一粒重や果房重への影響はない（表 1、図 4）。
3. 環状はく皮処理をすると品質が向上して早期収穫が可能となる。糖度 18 %、酸度 0.6% を出荷基準とすると熟期促進効果は 7 ～ 10 日程度である（図 3）。

[成果の活用面・留意点]

1. 施設栽培「ロザリオピアンコ」において熟期促進技術として活用できる。
2. 環状はく皮は癒合が不完全な場合は樹勢低下の恐れがある。
3. はく皮部は約 1 ヶ月で癒合するが、害虫による食害を受けると樹勢低下の恐れがあるので、スカシバ類、コウモリガの食害に注意し、必要に応じて殺虫剤を散布する。
4. 着果過多は品質低下を招く大きな要因であり、環状はく皮の効果も劣るので必ず適正着果量（1.5～2.0 t / 10 a）を守る。

[ 具体的データ ]

処理位置 棚下 30  
(主幹部の ~ 50cm)

図1 はく皮位置



図2 処理直後の状況

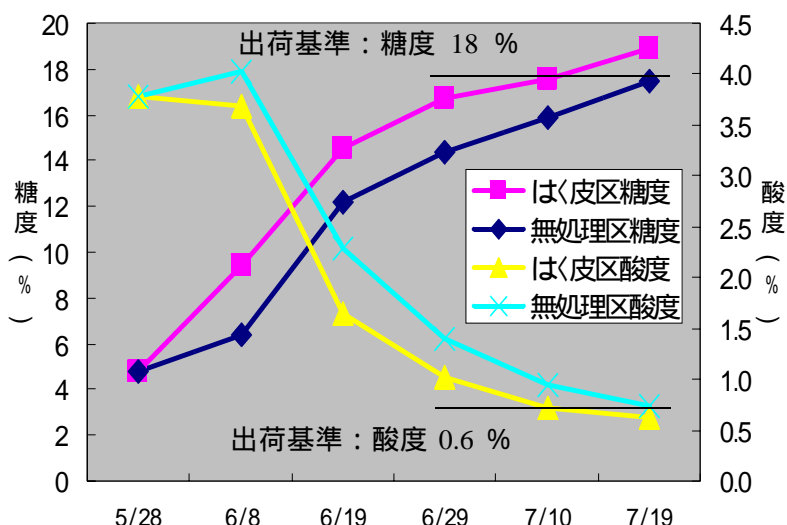


図3 ハウス栽培「ロザリオピアンコ」の環状はく皮処理後の糖度、酸度の推移 (2007年)

表1 開花32日後の環状はく皮処理がハウス栽培「ロザリオピアンコ」の収穫時の果実品質におよぼす影響<sup>2)</sup>

試験区	果房重 (g)	着粒数	一粒重 (g)	果皮色 <sup>3)</sup>	糖度 (Brix)	酸度 (g/100 ml)
はく皮区	545.3	47.5	11.5	4.0	18.7	0.58
対照区	546.5	48.9	11.2	2.8	17.9	0.68
有意性 <sup>4)</sup>	N.S.	N.S.	N.S.	*	*	*

<sup>2)</sup>2006年7月20日、2007年7月19日調査、2ヶ年の平均値

<sup>3)</sup>果皮色は5：黄色、3：緑黄色、1：緑色で指数化

<sup>4)</sup>\*はt検定により5%水準で有意差あり



図4 (左)はく皮処理した果房、(右)無処理果房

[ その他 ]

研究課題名：赤色系、白色系ブドウ新品種の栽培技術確立による新商材の開発

予算区分：県単

研究期間：2005 ~ 2010年度

研究担当者：福田浩幸、稲富和弘、加藤恵

発表論文等：2006 ~ 2007年度落葉果樹試験研究成績概要集